

## “食糧援助”現地からの報告

1997年9月13日

曹洞宗国際ボランティア会

秦 辰也氏 後援より

6月中旬に現地調査に行ってきました。救援物資も持って以下ない段階で、調査という目的だけで行くことについては抵抗もありましたが、現状を見ないことには、日本の中で協力者に説得できないと言うことで、3名で行ってきました。

被災地を視察し、現地のWF Pの事務所も見せていただきました。

北朝鮮は、全国の7割か8割が山で、穀倉地帯が非常に少ない。2割程度の穀倉地帯が南のほうにあるんですが、そこが95年の水害で被災しました。

私たちは開城（ケソン）周辺、平山（ピョンサン）周辺、銀波（ウンパ）のあたりを視察しました。平山は3日間で600ミリを越す雨が降ったという話で、相当な雨量です。

あちらの農業政策として、お米よりトウモロコシをドンドン植えて開墾し尽くしています。だから当然保水力がないため、貯水池や河川が決壊してしまいました。

復旧工事は場所によりますが、なかなか進んでいません。ガソリンがたいへん不足しているので機械が動かせません。あるいは、機械そのものが大変に古くて、実際向こうでは木炭車が走っているんですね。とにかく、人海戦術で兵隊さんも大勢出て、土砂をどけたり、石垣を組みなおしたりしてやっている。調度田植えの時期だったので、皆で一生懸命田植えをして、終わると草取りをする。畑でも腰を曲げて鎌を使って、一生懸命草取りをしていましたが、きつそうに見えました。

託児所、家庭訪問をしました。やはり栄養失調の状況はひどい。場所によって違うと思うが、平均して30%か25%の栄養失調があります。

平山（ピョンサン）の総合病院だったが、子どもたちが20人くらい栄養失調で入院していました。平山郡の郡長さんが、自分の郡で20人の子どもたちが死んだんですよと、ぼろっと言ったんです。多分、栄養失調による感染症ではないかと思います。

4、5、6月の次の麦が採れたり、夏野菜が出てくるまでの端境期にあたる頃を「麦の峠」と呼ぶんですね。これから秋にかけて収穫期になるんですが、その収穫したものの備蓄がどんどん減っている。そのあいだに多くの方が亡くなっていたという状況がありました。

そういう結果を踏まえて、日本に帰ってきて理事会で報告し、ビデオも見せました。そこでは「今までと同じような情報しかとっていないんじゃないか」「実際厳しい状況は分かるけど、物資を送って本当にとどくのか」「あの国はオープンじゃないから、一度行っただけでも専門家になってしまう。しかも非常に政治的な問題にからめ取られるので、組織そのものもつぶされる可能性がある」などケンケンガクガク議論しました。しかしながら実際に飢えて、病気で亡くなっている子供たちが毎日いるわけだし、その現状になにもしないで、ただ傍観者になってしまって、座視してしまっているのかという意見も当然あって、無駄だとしても、あるいは全部が全部届かないにしろ、やっぱりやるべきだという意見もずいぶん出て、取り組もうと言う結論に達しました。

については現地に事務所を開いているWF Pの人に協力していただき、モニタリングに当たってもらえるような形で薦めましょうと言うことになりました。

第一期、第二期、第三期と言うことで今取り組んでいます。方法としては3つくらいのやり方で現地

に食料を送っています。

まずひとつは、物資を集めながら義捐金も同時に募っています。物資は、お米、麦、乾麺、缶詰、栄養ドリンクなどで、全国国各地に集積所を設けます。今北海道から沖縄まで17,8ヶ所名乗りを上げてくれています。集めた物資を仕分けしてきちんと梱包するボランティアさんもいます。仕分けした物資は、新潟港に運んでもらう所まで集積地の方の役割にしまして、新潟港からは万景峰 92 号に載せてもらい本山港（ウォンサン）に入ります。そこから被災地に送ります。

もうひとつは義援金を募って安いお米を中国から買い付けます。1 キロ 35～6 円で手に入ります。それと WFP さんに義援金を出させていただいて、トウモロコシやお米を買い付けていただいて配っていただく。この 3 つの方法を取っています。

第一期ということで、130 トンを 7 月末から 8 月上旬にかけて送りました。送った物資がどうなっているかその調査（モニタリング）に 8 月 12 日から 19 日まで行ってきました。6 月に比べると若干明るく感じられました。夏野菜が出てきたことと、ジャガイモなども届いていましたしね。平山も平譲もそうでした。ただし早魃がかなりひどいので、これから冬季に入っていきますと、乗り越えていくのがかなり厳しい。現在備蓄がほとんどない状態なので、本来政府がやっている配給システムでは対応できないわけです。

元山（ウォンサン）に着いた物資はその周辺にと、そういう配り方をしていると言っていましたので、例えば、WFP さんの持っていく物資については、現地水害対策委員会と協議して、この物資はどこに持って行くという取り決めをして被災地に届ける。で、WFP の職員の人たちが、配給の場所をチェックして、本当に家庭や病院や託児所に配られているかをモニタリングしている。そういうやり方で今進められているということは、今回の訪問で確認されました。

私たちが、持って行った一部は配布所に持っていきましたが、残りの物資については、WFP さんをお願いしてモニタリングしてほしいということで、契約を交わしました。

9 月 25 日に第二便を出す方向で進めています。一期より量は増えると思う。今のところ日本で 40 トンくらい集まる。買い付け数も数百トンは今回持っていけるかなと思っています。

以上